



ロータリーは機会の扉を開く

週報

2020~2021 年度 RI 会長 ホルガー・クナーク
(Herzogtum Lauenburg-Mölln ロータリークラブ<独国>)

RI 第 2730 地区ガバナー 風呂井敬 (鹿屋西 RC)
鹿児島県市内ガバナー補佐 B グループ野井倉洋豪 (鹿児島東南 RC)
A グループ上川映男 (鹿児島南 RC)

鹿児島東南ロータリークラブ

会長 飯野 和男 幹事 東 則秋 副会長 居川 亮
(例会日、場所) 毎週火曜日、鹿児島市与次郎一丁目8-10
サンロイヤルホテル Tel 099-253-2020
(事務局) 〒890-0062 鹿児島市与次郎一丁目8-10
サンロイヤルホテル4F Tel 259-6855 Fax 259-1622
E-Mail info@tounanrc.jp ホームページ <http://www.tounanrc.jp/>

第 2458 回 No.13
2020 年 11 月 10 日 (火)
本日のプログラム 二火会

10 月 27 日第 2457 回

11 月 結婚記念日おめでとうございます。
中馬敏之君 (3 日) 別府雅之君 (11 日) 上田平重樹君 (15 日)

会長挨拶

会長 飯野 和男

2730 地区社会奉仕委員会研修会が 10 月 18 日中村メインホテルにて行われました。瀬戸口委員長が所用のため出席がかなわず代理出席致しました。

研修会は

- ・ロータリー家族の献血活動
- ・ロータリー地域社会共同隊 RCC の構築
- ・昨年度提出、各クラブ委員会活動のアンケート内容について質疑応答
- ・その他

でありました。東南 RC は鹿大で行われた啓蒙活動について話しました。どのクラブも会員の高齢化により、会員の献血だけでは足りないようで苦慮されていました。学生に対する啓蒙活動は参考になったとのことでした。

RCC の構築については城西 RC が 20 数年前より取り組まれてその活動について説明がありました。RCC はロータリーの奉仕へのコミットメントを共用するロータリアンではない人々のグループで RCC の所在する村または地域社会に居住、就職、通学している人なら誰でも隊員になれる。隊員は最低 10 名でアクトの OB で形成したりして親子のふれあい、奉仕活動を通して月 1 回は開催しているとの事でした。

野井倉先生が肺炎で入院されたと聞きました。皆様くれぐれも体調に気を使ってください。

ゲスト・ビジター紹介

今回はいらっしやいません。

会務報告

- 次週は祝日の為、休会となります。次回は11月10日二火会になります。
- 今年度のRYLA開催は中止となりました。
- 今年度の志學館大学模擬面接会は中止すると志學館大学より連絡がありました。
- 台北国際大会の申込期限が今週土曜日10月31日となっております。未提出の方は申込書を旅行会社と事務局に送付をお願いします。

出席報告

会員数	22名	前々回出席者	13名
出席免除	2名	メイクアップ	7名
出席会員	14名	出席訂正率	95.2%
出席率	70%		

スマイル報告

今回はございません

本日計 0円 累計 108,000円

RA スマイル報告

今回はございません。

本日計 0円 累計 5000円

本日のプログラム 二火会



瀬戸口会員の乾杯でスタート！



中馬会員へ出産祝いが送られました！



田中会員の締めで閉会！

理事会報告 2020年10月27日18時～

於：蘭丸

出席者：飯野 上原 別府 田中 田代 瀬戸口 中馬 居川（敬称略）

1 プログラムについて

11/3 祝日休会

11/10 二火会

11/17 新入会員卓話 赤崎会員

11/24 ロータリー財団フォーラム 理事会 12時～

12/1 クラブ総会

12/8 会長・幹事上半期を終えて

12/15 新入会員卓話 鳥丸会員

12/22 クリスマス家族夜間例会 理事会 18時～

12/29 第5週目のため休会

2 次年度地区補助金事業について

・日程は決まっていないが、コースは決まっている。次回は農作物が中心。

・現在、補助金事業が終わっているのは東南RCのみ。

3 サンロイヤルホテル会場費 3000円/回 について

・全員一致で費用負担を承認。スマイルから支出することも承認しました。

4 寶來会員の出席免除について

・全員一致で承認。

5 その他

・今年度の職場訪問は、機会があれば実施したい。居川委員長を中心に全体で検討する。

・ガバナー推薦について、当クラブからは該当者なし。

・今年度のRYLAは中止。

・今年度の志學館大学の模擬面接は中止。

鹿児島東南 RAC 活動報告

東南 RA 会員で井料会員の農園へ収穫にいきました！



国際ロータリーホームページより

モンゴルの環境危機に取り組む

ロータリー平和フェローがヤギ畜産農家たちの合意形成を図り、適正賃金の確保や草原保護を支援

10月5～11日の週、全世界のロータリアンと学友が、経験をシェアし、互いにネットワークを広げ、ロータリーに参加しつづけるためのアイデアを交換します。学友参加推進週間(Reconnect Week)の活動のアイデアをご覧ください。

モンゴルでは、過放牧が原因でかつて肥沃だった草原の多くが砂漠化し、野生ヤギの畜産を生業とする人たちが

苦境に立たされています。この環境問題はさらに、同地域における対立の激化にもつながっています。

ユ・ドンジュさんは現在、ロータリー平和フェローとして習得したスキル、そして持続可能な方法で生産されたカシミヤ製品を扱う Le Cashmere ブランドの CEO としての立場を生かし、過放牧の抑制に取り組みながら、競争ではなく協力しあうことで草原を保全するよう畜産農家に呼びかけています。

モンゴルでは、春になると自然に抜け落ちる野生ヤギの毛の外側の暖かい部分を使用し、厚みのある冬用コートを売って生計を立てている世帯が数多くあります。この毛を手でとかし、カシミヤを作ります。

一方で、中間業者が多額のマージンを持ってしまったため、農家はヤギの頭数を増やし、草原を拡大せざるを得ないのが現状です。しかし結果的には、過放牧と砂漠化が進み、畜産農家の生活が圧迫されるだけです。ドンジュさんはかつて、韓国国際協力団(KOICA)のボランティアとして活動していた頃に、この負の循環を目の当たりにしました。同時に、ボランティア団体や企業が木を植え、砂漠化による近隣諸国での黄砂の被害を防ぐ活動に取り組んでいることを知りました。ドンジュさんは、この問題を根本から解決し、畜産農家の収入を増やすことで、過放牧をせずとも暮らしていける環境を作りたいと考えました。

そこでドンジュさんは、畜産農家がカシミヤを十分な価格で販売できることを保証する協同組合を立ち上げました。また、一定規模の牧草地一カ所で毎年飼えるヤギの頭数を算出し、その数以上にヤギを放牧しないよう協同組合員たちが互いに合意するよう取り計らいました。さらに、先代の畜産農家たちが実践していた「循環型放牧」を導入。これは、草原を3区画に分けて順番に使用することで、使用していない区画の草原を回復させるという方法です。

設立当初は6世帯しか所属していなかったドンジュさんの協同組合も、今では292世帯が所属するまでに成長しました。モンゴル政府も過放牧を減少させるさまざまな取り組みを主導していますが、ドンジュさんのアプローチは現地の農家にとって利益確保の方法が明確であるため、政府主導の取り組みよりも効果的で、地元有力者や協力団体もこの方法が地域全体を支えていると考えています。

このように現地の利害関係者と連携して地域の問題を解

決する方法を、ドンジュさんはデューク大学(ノースカロライナ州)のロータリー平和センターで学びました。

『『平和』という言葉は漠然としています、もっと広く捉えるべき』とドンジュさん。「あらゆる問題には対立がつきものですが、解決策を見つけ、実際に解決するプロセスこそが平和構築なのです」

「あらゆる問題には対立がつきものですが、解決策を見つけ、実際に解決するプロセスこそが平和構築なのです」

KOICAでボランティアとして活動していたドンジュさんは、韓国のロータリー会員たちがモンゴルの森林再生を目指して立ち上げた「モンゴル緑化プロジェクト(Keep Mongolia Green Project)」の初期段階に携わりました。そこでドンジュさんが見たのは、現地の人たちと緊密に連携してニーズを把握し、プロジェクトを持続可能なものとするために奮闘するロータリー会員の姿でした。これに刺激を受けたドンジュさんは、ロータリー平和フェロシッップについて調べ、デューク大学のロータリー平和センターでのフェロシッップに申請して国際開発政策を学びました。

デューク大学には、社会起業家に特化したプログラムがあり、ビジネスを通じて諸問題を解決し、持続可能性を実現したいというドンジュさんの希望に沿うものでした。

このプログラムでは、専門家や活動家、研究者、元政府職員といった経歴を持つ学生たちが、日々、活発な議論を展開。ドンジュさんはその経験から、さまざまな視点を持つ人たちの合意形成(コンセンサス)を図るスキルを身につけました。

「ロータリー平和センターで出会った人たちから刺激をもらいました」とドンジュさん。「私がアフリカでビジネスを立ち上げたとき、アドバイスをくれたのも仲間の平和フェローでした。この仲間たちとは今もつながっており、彼らの活動からヒントをもらっています」

ロータリー平和フェロシッップでの経験が社会の支援にも役に立っているとドンジュさんは言います。多くの場合、平和フェローは各自の受入クラブと緊密な関係にあります。ドンジュさんの受入クラブも、活動に誘ってくれたり、デューク大学の卒業時には数時間も運転して卒業式にかけつけてくれました。「私にとって受入クラブの方々は今でも両親のような存在です。今でも連絡を取り合っています」とドンジュさん。

さまざまな背景を持つ他の活動家や専門家にも、ロータリー平和フェロシッップへの申請を呼びかけています。

「あらゆる分野、あらゆるレベルで一斉にムーブメントが起これば、世界平和は実現可能です」とドンジュさんは話します。



ユ・ドンジュさんと協同組合に所属する畜産農家

★記帳メーキャップ受付(11:30~12:30)。			
11/17 新入会員卓話 赤崎会員	11/24 ロータリー財団フォーラム 12時~理事会	12/1 クラブ総会	
月/日	クラブ	例会場	プログラム
11/11 (水)	鹿児島南	サンロイヤル	ゲスト卓話
	鹿児島西	県民交流センター	ロータリー財団フォーラム
	鹿児島西南	ゆうづき	フリートーク
11/12 (木)	鹿児島東	サンデイズ	家庭集会報告
	鹿児島北	インプラントホテル	会員卓話
	鹿児島SW	鹿児島東急REI	ロータリー財団フォーラム
11/13 (金)	鹿児島	山形屋	ゲスト卓話
	鹿児島大学 アカデミー	鹿児島大学	休会
11/16 (月)	鹿児島中央	山形屋	会員卓話
	鹿児島 令和	鹿児島東急REI	休会
11/17 (火)	鹿児島城西	鹿児島東急REI	米山奨学生卓話